

# 命を守るために

一 地域が、家族が、自分が一

東日本大震災から3年が経過しました。

今もなお、復興とは程遠く多くの爪あとが残されており、いかにこの地震や津波が想像を超えたものであつたかがうかがい知れます。

この震災による人的被害は、死者15、854人、行方不明者3、274人、負傷者6,023人（平成25年9月1日現在・消防庁災害対策本部調べ）にものぼり、犠牲者の死因についても90%が津波による水死です。また、建築物についても、多くが津波によつて流され、津波の脅威をさまざまと見せつけられました。

近い将来、南海トラフ巨大地震が起ることされています。  
それまでにできることは何か？  
その時にできることは何か？

「自分の命は自分で守る」

当たり前のことを、その時に当たり前のように行動するためには、普段からの備えが大切です。



## 一番大切なのは「自助」

いち早く避難するためには、一人ひとりが自分の身の安全を守る「自助」が重要です。

そのもつとも大切な「自助」を取り組むために、まず、災害に備え、自分の家の安全対策をしておくとともに、家の外で地震や津波に遭遇したときの身の守り方を知ることが必要不可欠です。

防災対策には、絶対大丈夫というものはありません。自分の身の周りにどのような災害の危険が及ぶのかを考え、その被害ができるだけ少なくする対策が重要です。

大きな地震が発生すると「家具は必ず倒れるもの」と考える必要がありま

す。寝室や子ども部屋はできるだけ家具を置かないようにし、置いている場合



津波避難場所



津波避難ビル

は転倒防止対策を必ずしてください。また、出入り口を塞いだりしないように、家具の向きや配置を工夫しましよう。

地震はいつ発生するかわかりません。夜に備え手の届くところに懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備えて置きましょう。スリッパは避難に、ホイッスルは救助に役立ちます。

初めて訪れた観光地など地理に詳しきない土地でも「津波避難場所」または「津波避難ビル」のマークを目印に避難してください。

また、あらかじめインターネット等で「津波避難場所」「津波避難ビル」を調べておくことも大切です。

## 人命捜索活動を通して…



有田市消防本部  
松下順二消防士長

東日本大震災の翌日に緊急消防救援活動を行った有田市消防本部の松下順二消防士長に、当時の状況などを聞きました。

「災害現場を見て、感じたことは？」  
テレビなどで戦争によって跡形もない町の風景を見たことがあります  
が、まさにそんな風景が目の前に広がっていました。津波の恐ろしさを感じましたね。

「現場での活動内容は生存者の確保を最優先に行方不明者を発見し救出することを目的に現地へ向かい活動しました。近い将来、南海トラフ巨大地震が発

生すると言われていますが、東日本大震災における活動を通して、市民の方に伝えたい思いなどありますか？

まずは、「高台へ逃げろ！」と伝えたいたですね。「有田市に津波が来ても宮崎の鼻のおかげで大した被害に遭わない」などといった話を聞きますが、何の根拠もないことです。自分の命は自分で守るしかないことです。自分を実感しましたね。誰にも頼らず、自分の命を第一に行動してほしいと思います。

また、東日本大震災では、いったん避難したにもかかわらず、家族がないとの理由で、自宅に戻り、津波に襲われ亡くなられた方が多くいます。たとえ家族が自分の避難した場所にいなくても、他の避難場所にいるという信頼関係を築く必要がありますが、何の根拠もないことです。自衛隊や消防などが活動して助けられる命はほんのわずかなんです。自分には、事前に家族間で話し合うことが必要だと思います。

地震が起つた時に1分後、10分後、1時間後に自分はどうしているか、どうなっているか、考えてみるください。自分が死んでいると想像する人は非常に少ないのですが、とにかく「とにかく逃げる」ことを頭に置き、冷静に、迅速に避難行動をしてほしいと思います。



東日本大震災で津波による被災の模様  
仙台市提供

## 避難三原則

- 一・想定に  
どらわれるな
- 二・その状況下に  
おいて  
最善を尽くせ
- 三・率先避難者たれ

昨年、内閣府より、南海トラフ巨大地震の規模はマグニチュード9.1、和歌山県の被害想定（最大値）は、人の被害（死者）では80,000人、建物の全壊棟数では190,000戸と、東日本大震災を上回る規模で、大きな被害が出ると発表されました。まもなく和歌山県からも各市町村ごとの被害想定が発表される予定ですが、大きな被害が想定されることに間違いません。

しかし、その時の行動次第で、その被害を最小限に抑えることはできます。昨年、本市で講演された片田敏孝氏（群馬大学大学院教授）は、「津波から命を守るのはすばやい避難である。そのためには避難三原則が大切である」と話されました。地震が発生する前に、避難三原則に基づき、備えと行動ができるよう、今一度心の準備をしてください。